

## ～活動報告～

### ーオープンキャンパス2012「女子学生コース」ー

進学促進部会



2012年8月7日(火)、本郷キャンパスにおいて全学的なオープンキャンパスが開催され、男女共同参画室でも例年通り「女子学生コース」を情報学環・福武ホールにて実施し、本年は中高生・保護者合わせて115名のご参加をいただきました。

開会に際し、本年度より男女共同参画室長に就任した山下友信教授(大学院法学

政治学研究科)より、「2006年に設置された男女共同参画室において、6代目で初めて男性が室長になりました。これからは男性も当事者意識を持って、責任を持ち、積極的に男女共同参画を進めていく段階に入っていると考えています。」と挨拶がありました。



山下室長



春日氏

卒業生をお二人お招きし、基調講演をいただきました。法学部出身の弁護士、春日舞氏は、大学進学時は漠然と興味があった法学につながる文科一類を選択したが、入学後に積極的にサークル活動を行う中で、弁護士という進路にたどり着き、大学院に進学した事をお話され、また、参加した中高生に向けて「大学生は自由な時間が本当にたくさんあり、親とは関係ないところで活動できることがすごく広がるので、是非とも自分の好きなことを何でもやってみてください」とアドバイスをいただきました。続いて、工学

部出身でJAXAを経て現在は国立環境研究所勤務の白井知子氏から、中学生の頃に環境問題に興味を持ってから、その勉強・研究を行う場所として東京大学を選び進学したこと、進学、就職、研究課題の選択などいくつかのターニングポイントでその時代のニーズや様々な人との巡り合わせの影響をうけつつ、現在まで一貫して環境問題に関わっていることをお話いただきました。



白井氏

後半のパネル・ディスカッションでは、現役の女子東大生(学部2～4年生)が、授業や課外活動、アルバイト等の東大生としての日常や、東大への進学を決めたきっかけ等を紹介しました。全員高校時代は文化祭や体育祭などの学校イベント、部活動に熱心に打ち込み、受験勉強は高校3年生の夏前後に切り替えたと話していたことが印象的でした。終了後は参加者が自由にパネリストに質問できる時間を設定し、多くの中高生が列を作っていました。



### 【次回イベント情報】

男女共同参画室主催(進学促進部会)『女子高校生のための東京大学説明会』を本年度も開催します。個別相談ブースやキャンパスツアー(申込先着順)も行います。参加申込受付(ウェブサイトより)は11月上旬を予定しています。

日時: 2012年12月22日(土) 11:00～16:00  
場所: 東京大学駒場キャンパス 講堂ほか

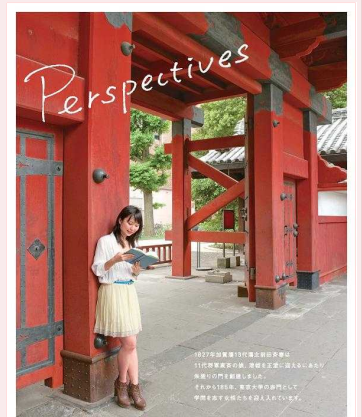
### 【WEB公開中】新版Perspectives

進学促進部会が作成している女子中高生向け冊子『Perspectives』は、これまで本学内や各都市で開催される主要大学説明会等で直接配布していましたが、今回の改訂版から、全国各地どこからでもご覧いただけるよう、男女共同参画室ウェブサイトでも公開しています。

表紙に登場するのは本学のシンボルの一つにもなっている「赤門」。これはかつて現在の本郷キャンパスが加賀藩のお屋敷だった時代に、13代藩主前田斉泰が11代将軍家斉の娘、溶姫を正室として迎え入れる際に創建されました。それから185年、現在は「東京大学の赤門」として、女子学生たちを迎え入れています。歴史ある門をめぐり、東京大学の一員になって欲しいとの願いを込めています。

本冊子は学内女子中高生向けイベントや、広報センター(龍岡門横)でも配布しています。

<http://kyodo-sankaku.u-tokyo.ac.jp/activities/shingakusokushin/index.html#Perspectives>



赤門の朱は  
あなたを待つ色



## 一ロールモデル紹介一

### 植物の生き方に魅せられ、人生を楽しみながら研究生活を継続

経塚 淳子 准教授（大学院農学生命科学研究科）

#### ～4人姉妹の2番目、若草物語のジョーのような性格～

私は、小さい頃はアウトローだったと思います(笑)。勉強はよくできましたし、性格も悪くなかったと思いますが、「みんなと一緒にがんばろう」というタイプではなかったので、小学校時代は優等生がやるような役職には就いたことがありませんでした。輪の中心から少しはずれたところで皆のことはすに見ているような子どもでした。姉妹のなかでもちょっと浮いた存在だったかもしれません。たとえるなら、若草物語のジョーのような独立心があってさっぱりした子どもでした。

父が高校の数学教師、祖父が小学校の理科の先生ということもあって、理科は小さいときから好きでした。母も働いていたので、小学生の時には祖父母といることが多く、理科好きは祖父の影響が大きかったと思います。祖父は庭造りが好きで、ブドウ棚を作り、薬剤を使って種なしブドウを作ったりしていました。私はいつも祖父を手伝っていたので、植物を育てたり、生き物を眺めたりするのが大好きでした。小学生向けの雑誌「科学」の付録も祖父がきちんと作りたがるので、一緒に作って一緒に実験をしていました。算数も好きでした。今思うと、理屈っぽいことが好きで、凝り性でした。

#### ～バイオテクノロジーに興味を持ち、大学へ～

中学、高校でも理科と数学好きは続いていて、高校では理数科にいました。私が高校生だった1970年代後半は、バイオテクノロジーが脚光を浴び始めた時期で、なぜか地理の先生が遺伝子組み換えや食糧生産の明るい未来像を語っていました。その話がとてもおもしろくて、将来は生物の研究をしたいと漠然と思いました。

東大に進学したのは、何を専門にするのかすぐに決めなくてよいことと親が喜ぶからという理由でした。女の子が東大に行くことを喜ばない親御さんもいるという話を聞きますが、うちは母も働いていましたし、娘4人なので、父は女の子っぽくない生き方も歓迎したのだと思います。東大の3年で、最初の思い通りバイオテクノロジーをやりたいと考えて専門に進み、4年生のときは大麦の組織培養などの研究をやっていました。

#### ～博士課程に進むつもりが、望まれて就職～

その後大学院に進んで修士を取りました。そのまま博士課程に進むつもりだったのですが、ここでちょっとした偶然が起きました。研究室の仲間数人と指導教授に連れられてバイオ関連の会社に見学に行ったところ、会社から修士課程を出た人がほしいということになったのです。それも、できれば私に来てほしいとのことでした。その時はまだ就職は考えていなかったのですが、「そうしてくれるなら、行こうか」と思って入社することにしました。結果的に、その選択は幸いです。

私が入社したのは三菱化成と三菱商事が共同出資した「植物工学研究所」で、そこでイネの研究を始めました。当時のポストは外国で長く研究して帰って来た新進気鋭の研究者で、いろいろなことを教えてもらいました。何事にもとらわれることなく自分の意思を尊重すること、研究は年齢・性別・人

種にかかわらず世界共通言語であること、したがって世界を舞台に進めるものであることを学んだと思います。ここでの体験が私の大きな転機になったのです。

ここでやった基礎研究で、入社4年後に博士号を取りました。その間に結婚もしました。

#### ～外国に行きたいと思い、オーストラリアの研究所へ～

「植物工学研究所」には9年いましたが、望まれてふわふわと就職したので、途中から外国に行ってみたく思うようになり、会社をやめてオーストラリアの研究所に行きました。ポスト\*を取ってくれる研究所はなかなかなかったのですが、たまたま会社が共同研究をしていたオーストラリア連邦科学産業研究機構(CSIRO)が受け入れてくれることになりました。この研究所はキャンベラにあったので、そこで遺伝子組み換えユーカリの研究をしながら、オーストラリア中を旅行しました。私はもともとアウトドアが好きで、キャンプなどによく行っていたので、オーストラリアの生活は楽しかったです。人がハッピーで、研究者が楽しそうに研究しているのが印象的でした。やはり、一度は外国に出ることを勧めます。

#### ～奈良先端科学技術大学院大、東大でイネを研究～

オーストラリアには2年いて帰国しました。奈良先端科学技術大学院大学でポストが得られたからです。そこでイネの研究を再開しました。できたばかりの新しい大学だったので、スタッフ全員が研究に燃えていました。iPS細胞の山中伸弥さんもいたりして。そこには7年いましたが、一か所あまり長いのもどうかと思い、東大の公募に応募して採用されました。東大では栽培学研究室で、イネの枝分かれの研究をしています。

夫は東京に戻ってから正式な職に就きましたが、それまではフリーのサイエンスライターだったので、一緒にオーストラリアや奈良に行くことができました。単身赴任はたいへんなので、これはラッキーだったと思います。夫のほう時間が自由だったので、銀行や市役所の手続きなど、家の事務的なことは全部やってもらっていました。

#### ～進路選択で大事なのは、好きな道へ進むこと～

理系の学部に進学を希望している女子高生には、ぜひ好きな道へ進んでほしいですね。理系でも文系でも、進路選択で大事なのは、好きなことをやってみることだと思います。世間一般で言われていることには思い込みや勘違いが多かったりします。周りの言葉に惑わされずに、やりたいことを自由にやったらいいと思います。自分の興味があることを研究するほうが、おもしろいに決まっています。

東大は、建物や設備はけっこう古いですが、総合的にみると良い環境だと思いますし、いろいろな可能性があります。大きな組織なので不自由なこともあります。先生方は学生の教育に熱心で、ほんとうに力のある学生を育てたいと心か





ら思っています。東大に興味があったら、女子中高生向けのイベントに参加するなどして、東大の見学に来て下さい。好きな勉強ができそうな学部があったら、敷居が高いと思わずにぜひ受験してください。私が学生だった頃より、女子トイレなども整備されましたね。

～広い視野で社会を眺めて、幸せになる道を選んで～

研究者をめざす学生は、男子も女子も「どうやって職を得るか」が大きな問題です。そこでちょっと考えてほしいのは、博士号やポストドク\*だけが人生ではないということです。広く社会を見れば、研究者の経験を活かして生きる道はいろいろあるので、大学だけではなく外の世界も視野に入れて研究者をめざしてほしいですね。私自身、企業の研究所や別の大学を経験したことで視野が広がりましたし、それが自分の強みだと思っています。

どんなに良い仕事や地位があっても、自分が幸せでなくては意味がありません。幸せになる道は一つではないので、そのときに自分がいちばんよいと思う道を選べばいいと思います。私には子どもがいませんが、子育ての間しばらく研究生活から離れなくてはならないということもあるでしょう。でも、研究が好きなら、好きな道に戻れます。子育てでも研究でも、「こうしなければならない」「今これをやらないとだめになる」というような思い込みは捨てて、リラックスして、自分がや

りたいことや自分の幸せを追求して行ってほしいと思います。自分らしく生きることを大切にしてください。

\*ポストドク(ポスト・ドクター)

博士号取得後に、任期付きでプロジェクトに関わる若手研究者

※男女共同参画室ウェブサイト「インタビュー」コーナーでは、女子中高生、本学女子学生のみなさんにとってロールモデルとなるような女性研究者を中心にご紹介していく予定です。是非ご覧ください！

経塚 淳子 (Junko KYOZUKA)

東京大学大学院農学生命科学研究科 生産・環境生物学専攻 准教授

富山県出身。1982年東京大学農学部卒業、1984年同大学院農学系研究科修士課程修了。三菱化成植物工学研究所研究員、オーストラリア連邦科学産業研究機構(CSIRO)研究員、1997年奈良先端科学技術大学院大学助教授を経て2002年東京大学大学院農学生命科学研究科助教授、2007年より職名変更に伴い現職。農学博士。

<http://kyodo-sankaku.u-tokyo.ac.jp/interview/>

一女子中高生理系進路選択支援事業一

東京大学では、平成24年度も「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」(2006～2011年度の活動については男女共同参画Newsletter vol.10でご紹介しています)に採択され、男女共同参画室が中心となり、各部局と連携を取りながらセミナーや研究室公開などを実施します。



家族でナットク!  
理系最前線  
東京大学 女子中高生理系進路支援

<http://kyodo-sankaku.u-tokyo.ac.jp/joshi/>

日時	担当	タイトル	
2012年9月30日(日) 13:00～17:00	理学部	東大理学部で考える女子中高生の未来	開催終了
2012年10月27日(土) 10:00～16:00	新領域創成科学研究科 物性研究所 大気海洋研究所	東京大学柏キャンパス 未来をのぞこう	参加申込 締切済
2012年11月3日(日) 13:00～17:30頃	男女共同参画室 先端科学技術研究センター	女子中高生のみなさん 先端研へようこそ!	参加申込 締切済
2012年11月23日(金) 13:00～17:00	工学部	東大工学部をのぞいてみよう	10/22(月) 受付開始
2012年12月15日(土) 午後	生産技術研究所	最先端の工学研究に触れてみよう!	詳細未定





## 一 教員による母校訪問一

現役女子学生の母校訪問事業に着手して今年で3年目、訪問実績も確実に上がってきました。訪問先高校から好評を得ていることもあり、今回、教員による母校訪問の試行版を実施することになりました。進学促進部会長の山室真澄教授(大学院新領域創成科学研究科)が、10月11日(木)の午後、母校である大阪教育大学附属高校天王寺校舎を訪問しました。

1年から3年までの女子生徒12名を前に、自らの経験も踏まえながら東京大学の特色や魅力を語り、その後質疑応答を行いました。参加者からは、大学のことだけでなく、東京での生活について等幅広く質問がありました。これを機会に、東京大学を身近に感じていただけたら幸いです。学



校行事等お忙しい中、訪問を受け入れてくださった関係者の皆様に改めて感謝いたします。

## 「さつき会奨学金基金」および「さつき会奨学金募集」のお知らせ

昨年めでたく50周年を迎えた東京大学女子卒業生同窓会「さつき会」が、この度「さつき会奨学金基金」プロジェクトを開始しました。女子の東大受験を促すとともに、入学後の女子学生に経済的・精神的なサポートを行い、次世代を担う女性をより多く輩出することを目的としています。基金の詳細については、こちらをご覧ください。

東京大学基金「さつき会奨学金基金」のページ

<http://utf.u-tokyo.ac.jp/project/pjt24.html>

本基金を原資とした「さつき会奨学金」は、入試出願前に申請する必要があります。詳細は、下記をご参照ください。

「東京大学さつき会奨学金の募集」案内ページ

[http://www.u-tokyo.ac.jp/stu02/h02\\_12\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/stu02/h02_12_j.html)

## 都河 明子 元東京大学男女共同参画室特任教授が「男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰」を受賞されました

2012年6月22日、総理大臣官邸において、中川正春内閣府男女共同参画担当大臣出席のもと、「男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰、女性のチャレンジ賞、男女共同参画週間キャッチフレーズ表彰」の表彰式が行われ、都河明子元東京大学男女共同参画室特任教授(国際女性技術者・化学者ネットワーク日本会長)が「男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰」を受賞されました。

都河元特任教授は、本学では、2007年に採択された文部科学省「女性研究者支援モデル育成」事業を推進するために着任され、約3年間の任期の中で、ポジティブ・アクションの推進、女性研究者のネットワーク構築、国際シンポジウムの開催や東京大学女性研究者白書の発行など、様々な活動にご尽力いただきました。

この度の受賞は本学男女共同参画室にとっても大変嬉しいニュースです。誠にありがとうございました!

(以下内閣府発行「共同参画」記載文)

国内外の女性研究者の現状、施策を調査研究し、女性研究者の能力発揮のための政策提言を行うとともに、理工系女子育成のため、理科実験教室の開催、理系職紹介のDVD作成、講演や本の出版など、科学技術分野での理解増進を深める活動に長年にわたり尽力されている。こうした活動により科学技術分野における優秀な女性研究者の人材の確保や支援に貢献された。



男女共同参画オフィス開設  
(左から)辰野裕一元当理事、都河元特任教授、小宮山宏前総長、渡井いずみ元特任助教(2007年)



「第2回日中韓女性科学技術指導者フォーラム」(2009年10月31日開催)  
(前列左から6番目: 都河元特任教授)

### 編集・発行

#### 東京大学 男女共同参画室

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1 第二本部棟1階

TEL: 03-5841-0291 FAX: 03-5841-0290

E-mail: [sankaku@adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:sankaku@adm.u-tokyo.ac.jp)

URL: <http://kyodo-sankaku.u-tokyo.ac.jp/>

### 【編集後記】

女子中高生理系進路選択支援事業の各イベント開催の時期になりました。既に開催済み、申込締切済みのイベントもありますが、現在計画中のところもあります。是非チェックしてください。